

三浦半島城ヶ島の完新世段丘

蟹江康光*・長浜春夫**†・
横山能史**・金谷義之**

Holocene terraces in Jôgashima Island, Miura Peninsula, south-central Japan

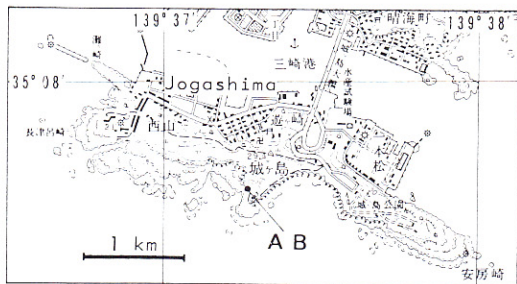
Yasumitsu KANIE*, Haruo NAGAHAMA**†,
Yoshihisa YOKOYAMA** and
Yoshiyuki KANAYA**

南関東地方海岸には数段の完新世海成段丘が分布しているが、各段丘の海拔高度や生成時代の資料(熊木, 1982;ほか)は多くない。完新世段丘資料は、完新世に生じた頻繁な地盤変動量や海面高度を推定するのに重要な資料となりうる。著者らは三浦半島最南部、城ヶ島における完新世海成段丘(第1図)を調査して(長浜ほか, 1987)、新知見を得たので報告する。

調査場所

城ヶ島中央南部の馬の背と呼ばれている地域の西側で4段の完新世段丘を実測した(第2図)。地形断面の測定は、城ヶ島中央頂面にある三角点(29.9m)を基準として、水準測量器および光波測量器を使用した。測量結果は次のとおりである。

関東地震(1923年)面 標高1.0-1.3m, 元禄地震(1703年)面 標高2.3-2.5m, 沼Ⅱ面標高6.1m, 沼Ⅰ面 標高8.8m



第1図 城ヶ島における完新世段丘調査地点(A, B)。

段丘構成堆積物

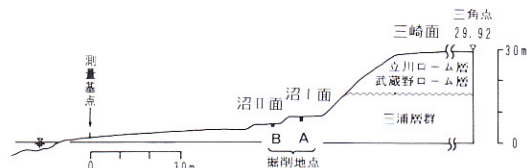
沼Ⅰ面・沼Ⅱ面は高さ数メートルのアズマネザサにおおわれて(第3図)、露頭がないため掘削して柱状図を作成した。

沼Ⅱ面(第4図の柱状図B)

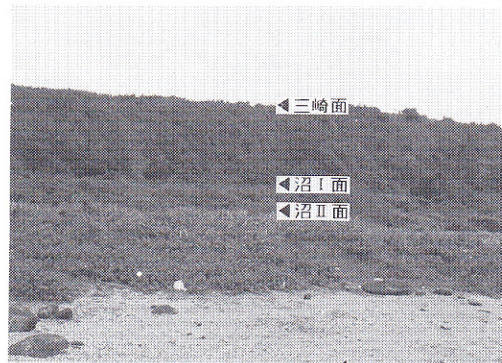
円磨された末固結の細礫・貝化石片まじりの粗粒砂である。柱状図の中・下部からクロアワビ *Nordotis discus*・サザエ *Batillus cornatus* や二枚貝の破片が多産した。

沼Ⅰ面(第4図の柱状図A)

分級のよい、円磨された、末固結の細礫・貝化石破片を含む粗粒砂である。柱状図の上部には富士山永火山(1704年)放出の厚さ10cmのスコリア層が挟まれている。柱状図下部には三浦層群初声凝灰岩層に由来した大礫(90×45×25cm)含むが、基盤を構成している三浦層群に到達しなかった。標高6.5m付近にはサンゴ破片をまれに産した。



第2図 城ヶ島地形断面。関東地震面と元禄地震面は示してない。



第3図 城ヶ島における沼Ⅰ面・沼Ⅱ面。段丘面は植生の下にある。

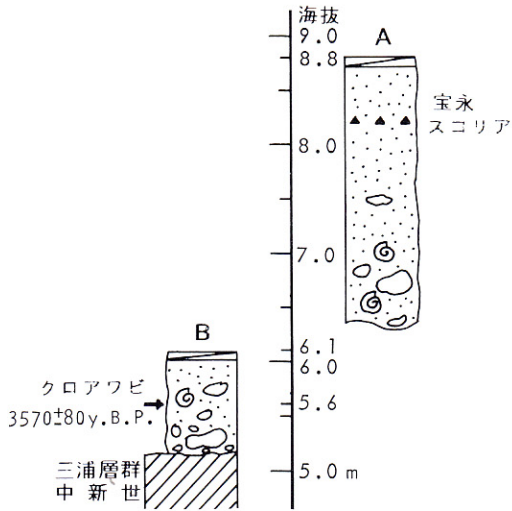
* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238.

** 住友建設土木部 Sumitomo Construction, Araki-cho, Shinjuku-ku 160.

† 大同建設工業 Daido Construction, Kofu, Yamanashi 400.

原稿受付 1989年9月30日 横須賀市博物館業績 第387号。

キーワード: 完新世, 段丘, 三浦半島 key words: Holocene, Miura Peninsula, terrace



沼Ⅱ面の生成時代

柱状図B地点から得られた二枚貝化石の¹⁴C年代を測定した.

測定番号 Gak-13216

B.P.年代 3750±80

試料 クロアワビ *Nodotis discus* (REEVE)

採集地 三浦市城ヶ島赤羽根, 馬の背西
 海拔5.6m 35°07'40"N, 139°37'10"E

採集者 長浜春夫ほか 1986年12月6日

化石保管場所 横須賀市自然博物館 YCM-GP 723

年代測定者 学習院大学理学部 木越邦彦

引用文献

- 熊木洋太 1982. 三浦半島の完新世段丘と完新世の地殻変動. 国土地理院時報, (54): 41-49.
- 長浜春夫・横山能史・金谷義之・蟹江康光 1987. 三浦半島城ヶ島完新世段丘. 地質学会第94年学術大会演旨: 118.